

平成28年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

（1）期日

平成28年5月21日（土）～22日（日）1泊2日

（2）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人・40人

②参加人数

29人

（3）講師等

1日目

講義「ボランティア活動の意義」

内容：ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや留意点を学ぶ。

講師：吉備国際大学保健医療福祉学部

社会福祉学科 特任教授 米良重徳 氏

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：青少年教育施設におけるボランティア活動内容を理解する。

報告：国立吉備青少年自然の家継続ボランティア 11人

講義・演習「ボランティア活動の技術」

内容：各施設の特性に応じたプログラムに対応するための知識技術等を学ぶ。

講師：国立吉備青少年自然の家職員 主任企画指導専門職 河本潤

2日目

講義・演習「安全管理」

内容：応急手当など救命救急に必要な知識・技術を学ぶ。

講師：深坂自然の森 森の家下関 所長 井上桂 氏

講義「青少年教育」

内容：今日の青少年教育の課題及び発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。

講師：公益財団法人 YMC Aせとうち 代表理事・総主事 太田直宏 氏

講義「青少年教育施設の現状と運営」

内容：青少年施設の教育機能や役割、運営について理解する。

講師：国立吉備青少年自然の家 次長 高藤佳明

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：法人ボランティア登録制度について理解する。

説明：国立吉備青少年自然の家職員 企画指導専門職 大下展弘

(4) 企画・運営のポイント

- ① 施設ボランティアが所属する大学では、そのボランティアにも広報活動に参加してもらい、ボランティア活動の様子を経験に基づいた生の声で紹介してもらった。
- ② 「青少年におけるボランティア活動」の説明を施設ボランティアが行うことで、参加者に寄り添った運営とした。
- ③ 実際に活動を体験する中で、ボランティアを行う上でのポイントを実感できるように企画した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

5月21日(土)		5月22日(日)	
9:30	受付	6:00	起床・洗面
10:00	開講式	6:45	清掃
10:30	講義2 ボランティア活動の意義	7:15	朝のつどい
12:00	昼食	7:30	朝食・荷物移動
12:45	説明1 青少年教育施設におけるボランティア活動	9:00	講義・演習2 安全管理
13:45	アイスブレイク	12:00	昼食
15:00	講義・演習1 ボランティア活動の技術	12:45	講義1 青少年教育
19:00	入浴	14:30	講義3 青少年教育施設の現状と運営
20:30	情報交換会	15:30	説明2 青少年教育施設におけるボランティア活動
22:00	就寝	16:30	閉講式

(2) 活動の状況



【開講式】



【講義「ボランティア活動の意義」】



【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【アイスブレイク】



【講義・演習「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習「安全管理」】



【講義「青少年教育」】



【講義「青少年教育施設の現状と運営」】



【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【閉講式】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：72% やや満足：28%

(2) 参加者の声

- ① もっと野外炊事ができるようになりたいと思った。
- ② 講義を聞く中で自分の中での考え方が広がり良かった。
- ③ いろんな人と話せたし、先輩ボラさんの話も聞けてためになった。
- ④ 自然に囲まれた施設ということでこの事業でしか経験できないことをたくさんすることができた。また、ボランティアの大切さを様々な角度で学ぶことができた。

(3) 成果

- ① 例年に比べ、大学の土曜日の授業が増えてきている。そのため、参加者が減少したが、自然体験活動指導者養成事業（NEAL）と講義の一部を兼ねることで、参加者が研修を受けやすかった。
- ② 施設ボランティアが広報活動に参加することで、学生達の関心が高まり、質問をしてくる学生もいた。
- ③ それぞれの分野に精通している外部講師の講義は、参加者のボランティアとしての基礎的な知識や技能の習得につながった。
- ④ 施設ボランティアと参加者が一緒に活動することで、ボランティア活動への意欲向上につながった。

(4) 今後の課題

- ① 学生ボランティアを養成しようと考え、土日は外せない。しかし、年々、土曜日の授業が増えつつあり、学生はボランティア養成研修を受けづらい状況になりつつある。来年度のボランティア養成研修を迎えるまでに、大学に土曜日の授業を予定しているかを尋ね、対策を練るようにする。
- ② 今年度に続き来年度も、活動した結果をフェイスブック等を通して県内外に広報し、施設ボランティアの活動の促進と普及を図る。
- ③ 今年度は、吉備ボランティア養成研修と自然体験活動指導者養成事業（NEAL）の講義を一部兼ねるように計画して実施した。効果を検証し、来年度の形態を工夫していく必要がある。

担当：企画指導専門職 瀧田 正宏